

適当な切れ目が置かれることがある。

【書体】 クメール文字は、子音字と母音記号からなる一種の音節文字である。書体には、ムール文字 (akṣara mūla) 系とチュリエン文字 (akṣara crieña) 系の二大別がある。

ムール文字系の文字はさらに、ムール文字とコーム文字 (akṣara khama) に分類される。ムール文字は「丸い文字」の意味で、碑文、仏典の本文のほか、印刷物の題名や見出し、公共の掲示物、看板など、装飾的効果の必要な場合に用いられる。

1) **コーム文字** コーム文字とは、元来、タイ人がクメール系文字に与えた名称であった。タイ人は古くからクメール人をコームと呼び、クメール文字をパリ語の仏典の表記に用いてきた。タイの言語学者カーンチャナー (Kāñcanā) によると、筆写の便宜上、ムール文字のうち k, ñ, j, v の4字の字画を一部省略したものがコーム文字であるという。コーム文字という呼称および字体は、タイからカンボジアに伝えられ、クメール人もこれをコーム文字、すなわち「クメール文字」と呼ぶようになったと考えられているが、ムール文字とコーム文字を区別せず、「ムール文字」と総称することも多い。

表2に、ムール文字とコーム文字の子音字を対照してあげる(音価については後述)。

2) **チュリエン文字とチョー文字** チュリエン文字系の文字はさらに、チュリエン文字とチョー文字 (akṣara jhara) とに分けられる。チュリエン文字は「斜体の文字」の意味で、一般の印刷物の本文や日常の読み書きに広く用いられている。チョー文字は「直立した文字」の意味で、カーンチャナーによれば、活字印刷の都合上、チュリエン文字を直立させたものであるという。したがって、基本的にチョー文字はチュリエン文字と同一のもので、両者の違いは書体の違いであると考えてよい。

これらの4種の書体の相違は文字の形態上の違いに留まっており、文字の構成法等には及ばないので、ここではチュリエン文字を例にとって解説する。

【表記法】 以下では、現代標準カンボジア語の文字表記法の概略を、1) 子音字、2) 母音記号、3) 音節表記法、4) その他の記号、の順に述べていくことにする。

1) **子音字** カンボジア語の子音字には2つの系列がある。1つは子音字母であり、もう1つは「脚」と呼ばれる子音字である。

子音字母は、それ1字を他の文字とは独立に書くことも、読むこともできるが、脚は常に子音字母の下に重ねて書かれ、単独で用いることはできない。

a) **子音字母** 表3は子音字母の一覧表である。子音字母は33種あり、その配列順はインドの音分類の概

表2 ムール文字とコーム文字の子音字

ムール文字	ក	ខ	ក	ឃ	ង
コーム文字	ក	ខ	ក	ឃ	ង
翻字	k	kh	g	gh	ñ
ムール文字	ច	ជ	ជ	ឃ	ញ
コーム文字	ច	ជ	ជ	ឃ	ញ
翻字	c	ch	j	jh	ñ
ムール文字	ត	ថ	ត	ដ	ណ
コーム文字	ត	ថ	ត	ដ	ណ
翻字	t	th	d	dh	n
ムール文字	ត	ថ	ទ	ដ	ង
コーム文字	ត	ថ	ទ	ដ	ង
翻字	t	th	d	dh	n
ムール文字	ច	ជ	ព	ក	ឃ
コーム文字	ច	ជ	ព	ក	ឃ
翻字	p	ph	b	bh	m
ムール文字	យ	រ	ល	វ	
コーム文字	យ	រ	ល	វ	
翻字	y	r	l	v	
ムール文字	ស	ហ	ឡ	អ	
コーム文字	ស	ហ	ឡ	អ	
翻字	s	h	l	a	

念に従っている。すなわち、まず破裂音および鼻音が、k行、c行、t行、t(d)行、p(b)行のように調音位置の喉に近いものから唇に近いものの順に、さらに、その他の半母音、流音、摩擦音の順に配列されている。

破裂音を含む子音字の各行は、伝統的に無声無気、無声有気、有声無気、有声有気、鼻音の順に並べられ、こ